

令和3年度農林水産技術会議開催結果

水産技術センター

開催日	令和3年11月17日	開催場所	水産技術センター (三浦市三崎町城ヶ島養老子)
部会名	研究課題設定部会		
評価課題	藻場再生技術高度化試験について		
評価委員	(国研) 水研機構 水産資源研究所 グループ長 長井町漁業協同組合 代表理事組合長		
評価概要	<p>・本課題は、磯焼けが三浦半島で急速に進んでいる中で藻場を再生していく取組であり重要である。早熟カジメに早く着目したところは新規性があり高く評価したい。早熟カジメの安定生産技術開発並びに早熟カジメを用いた藻場の再生について進めいただきたい。</p> <p>また国は、2023年から森林と同じように藻場も二酸化炭素の吸収源としてブルーカーボンを推進しており、藻場を増やして温暖化の根源である二酸化炭素濃度を下げる活動にもつながっている。</p> <p>・漁業者にとって磯焼け対策は死活問題である。藻場は漁業にとって必要不可欠なものであるため、重要性はいわずもがなである。是非とも進めていただきたい。長井の磯根では現在サンゴモなどが繁茂しており藻場が改善しないままの漁場もあるが、一部カジメが生えているところもあるので、早熟カジメを主体に再生を試みていただき藻場が回復することを期待している。</p>		

開催日	令和3年12月3日	開催場所	水産技術センター相模湾試験場 (小田原市早川)
部会名	研究成果評価部会		
評価課題	酒匂川濁流影響調査		
評価委員	公益財団法人 相模湾水産振興事業団 理事長 小田原市漁業協同組合 副組合長理事		
評価概要	<p>・本課題は平成22年の台風による酒匂川の濁流が漁場環境や水産資源に及ぼす影響を明らかにするものであり、漁業関係者の強い要望に応えたものであり妥当である。平成22年以前のモニタリングデータが無く、濁流の影響を過去と比較ができなかったが、今後も同様な濁流が発生することも考えられる。その時にこのモニタリング結果と比較することができるので、継続していただきたい。</p> <p>・本課題は、平成22年の台風による酒匂川の濁流が漁場環境や水産資源に及ぼす影響を明らかにするものであり、我々の強い要望に応じていただいたものであり妥当である。毎年のように濁流が発生している昨今、我々に調査結果を伝えてもらうことでいち早く対応を取ることができ、濁流が発生した時にこのモニタリング結果と比較することができ、次世代のためにもなることから引き続き事業を継続してもらいたい。</p>		